

# 道徳学習指導案

指導者：( 槇野・和久野・池内 )

- 1 日時 令和3年11月5日(金) 5校時
- 2 学年・学級 第1学年 1組・2組・3組
- 3 主題名 C-(6) [思いやり, 感謝]
- 4 ねらい 『登場人物それぞれの行動や気持ちを考えるを通して、様々な立場の人と付き合っていくために必要なことを考えることができる。』
- 5 資料名 「バスと赤ちゃん」(中学道徳『あすを生きる』日本文教出版)

## 6 主題設定の理由

### <主題観>

本主題は、「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」に示された内容項目(B 思いやり, 感謝)の「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」に基づき設定したものである。思いやりの心とは、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。中学生の段階では、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人の善意や支えに気づく一方で、家族など日常的に接してくれている人々に対し、支えられていることを有難いと思いつつも、疎ましく感じたり、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさを感じたりしている。特に、自分の存在に深く関わることになると言葉や行動としてうまく思いやりや感謝の気持ちを表現できないこともある。

本資料で大切にしたい道徳的価値は、バスの運転手、乗客、赤ちゃんを連れなお母さん、それぞれの立場の人が見せた相手への思いやりである。そこで、本授業では、バスの中から見られる三者の状況や気持ちを考えるを通して、それぞれが見せた思いやりに気づかせ、他者と上手く関わろうとする道徳的心情に迫っていきたい。

### <生徒観>

向島中学校の第1学年は、日々の生活の中で、友達に対する言葉遣いや行動が原因でトラブルになったり、嫌な思いをして相談するなどといったことが多くみられる。授業前にとった事前アンケートでは、『自分は思いやりをもって人に接することができている。』で約20%、『自分のクラスでは、思いやりをもって人に接する雰囲気がある。』で約26.2%の否定的な評価があった。具体的には、「ちょっと強めに言っている人がいる。」「悪口や暴言がある。」「最近クラスの友達が嫌な思いをすることがあった。」などの意見があった。クラスや学年の現状に対し、第三者の立場である生徒が素直に言葉や行動で自分を表現することができず、問題に対してどう関わるのか、どう行動していくのか積極的になれない雰囲気があることも分かった。道徳の授業を通して、思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、自分も他者も、共にかげがえのない存在であることに気づかせ、積極的に他者に関わろうとする態度や意欲を引き出したい。

### <指導観>

それぞれのクラスや、第1学年全体を通して思いやりをもって人に接することができなかつたり、思いやりをもって人に接する雰囲気が乏しい現状がある。本授業では、それぞれの立場の人が思いやりをもってとった行動や気持ちが他者と上手く関わっていくことにつながると気づかせ、思いやりについての理解を深めていきたい。そのために以下の2つの手立てをとる。

- ①生徒が対話的な学びを通して、しっかりと相手の意見に傾聴し、受容の雰囲気を深めるために、グループ活動で『話す・聞く』ことを重視し、司会を決めてグループの話し合いを活性化させ、安心して発言できる環境を保障し共感的人間関係の形成に努める。
- ②1つの立場だけでなく、登場人物それぞれの立場から主題に迫り、生徒が多面的多角的に状況を捉えていけるように発問を工夫する。特に第三者の立場の人の気持ちや行動に注目させたい。

7 準備物 教科書 中学道徳「あすを生きる」、ワークシート

8 学習指導過程

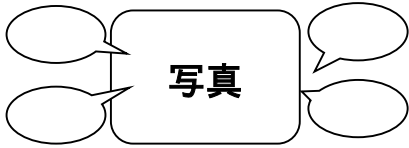
学習指導過程 範読時間：約分		導入 展開 終末	<input type="checkbox"/> 生徒が意見を言いやすい雰囲気を作る。 <input type="checkbox"/> 乗客の立場に注目し、気持ちや行動について考える。 <input type="checkbox"/> 学級・学年の状況と結びつけ、授業を振り返る。
		学習活動	指導上の留意点【発問の意図】
導入	1	イメージ：赤ちゃんってどんな印象ですか？	○導入として、生徒が意見しやすい雰囲気を作り、展開へと繋げていく。
展開分	2	資料の範読：約4分 状況の整理①『外の環境やバスの中はどんな様子でしたか。』 予想される発言 ・雪が降り出しそうな寒さ。 ・バスの中は暖房と熱気で苦しい。 ・バスは座れないほど人がたくさんいた。  発問①『火のついたような鳴き声…お母さんがバスを降りようとしたとき乗客はどう思った？』 予想される発言 ・赤ちゃんがうるさくて迷惑だから降りてほしい。 ・うるさくてたまらないけど、我慢する。 ・みんなが乗るものだし、降りなくてもいいと思った。 ・赤ちゃんがかわいいから許してあげよう！  状況の整理② 運転手のアナウンスから ほんの数秒かが過ぎたとき、一人の拍手につられて乗客全員の拍手が返事となった。  発問②『アナウンスを聞いた乗客はどう思ったのか。』 予想される発言 ・お母さんの気持ちに気づき、何とかしてあげたいと思った。 ・最初はうるさいなと思っていたけど、バスはみんなが使うものだから我慢も必要だなと思った。 ・お母さんのことだけ考えるのではなく、ほかの乗客の事も考えないといけないのではないかと思った。 ・音に敏感な人や体調不良の人にとっては、迷惑であることには変わらないのではないかと思う。	★グループで『対話する』活動 ○外の環境やバスの中が人々にとって厳しい状況であったことを確認させる。  ○乗客の正直な気持ちに迫り、生徒の気持ちに揺さぶりをかける。  ○乗客の中にも、運転手の思いに賛同し、お母さんを思いやる人、うるさいのを我慢した人、お母さんだけでなく他の乗客の人の事を考えた人、様々な人がいることに気づかせ、それぞれがかけがえのない存在であることを押さえたい。
終末分	3	まとめ・振り返り ★アンケート結果の提示（①・②） 振り返りの視点：様々な思いの人がいるけど、それでも様々な立場の人と関わっていくために必要なことは？	★個人が『書いて』振り返る活動 ○クラスや学年の現状と結びつける。 ○振り返りの視点を与え、ねらいに迫っていきたい。

バスと赤ちゃん

本時のねらい:登場人物それぞれの行動や気持ちを考えるを通して、  
様々な立場の人と付き合っていくために必要なことを考えよう。

赤ちゃんのイメージ

火のついたような鳴き声



○  
○  
○

○  
○  
○

外の環境やバスの中はどんな様子だった?



一人の拍手につられて乗客全員の拍手が返事となった。

○  
○  
○

○  
○  
○

- 
- 
- 

💡様々な立場の人と  
上手く関わっていくた  
めには?

- 
- 

板  
書  
計  
画